資料１

第２期愛媛県医師確保計画の評価について

・医師確保計画の実行性を上げるためには、具体的な数値目標の設定と評価を行い、その評価結果に基づき、計画の内容を見直すことが重要である。
・厚生労働省が定める「医師確保計画策定ガイドライン」においては、計画の効果について、計画終了時点で活用可能な最新データに基づいて測定・評価することとされている。
・厚生労働省から提供のあった医師偏在指標等の最新データや「医師・歯科医師・薬剤師統計（以下「三師統計」という。）」の最新結果（令和６年分）等を用いて、本計画で設定した目標医師数等について測定・評価したので報告する。

◆第２期計画期間

令和６年度～令和８年度までの３年間

〔第２期愛媛県医師確保計画における目標医師数の設定状況〕

圏域区分	圏域	厚生労働省算出			愛媛県計画（R6-R8）
		現在時点 R2 年 現在医師数	将来時点 R18 年 必要医師数	第２期計画期間終了時点 R8 年度末 下位 33.3% 到達医師数	目標医師数
－	愛媛県	3,693	3,671	3,152	**3,693**
医師多数区域	松　山	2,240	2,083	1,326	**2,240**
医師中程度区域	宇　摩	157	205	138	**157**
	新居浜・西条	442	550	371	**442**
	今　治	335	361	261	**335**
	八幡浜・大洲	263	298	221	**263**
	宇和島	256	285	212	**256**
	小　計	1,453	1,699	1,202	**1,453**

〔目標医師数に対する進捗状況〕

区分	圏域	愛媛県計画 R6-R8 目標医師数 （R2 現在医師数と同数 A	R6 現在 医師数 B	R2→R6 現在医師数の 増加数 C＝B-A	評価
―	愛媛県	3,693	3,762	**69**	◎
医師多数区域	松　山	2,240	2,299	**59**	◎
医師中程度区域	宇　摩	157	164	**7**	◎
	新居浜・西条	442	456	**14**	◎
	今　治	335	338	**3**	◎
	八幡浜・大洲	263	247	**▲16**	△
	宇和島	256	258	**2**	◎
	小　計	1,453	1,463	**10**	◎
（参考） 医師少数スポット	久万高原町	―	12	―	―
	愛南町	―	32	―	―

※現時点の三師統計の最新データは令和６年分であるため、当該データを用いて評価を行った。

評価
◎…目標値に達している
○…目標値に達していないが改善に向けて推移している
△…改善が見られない

〔医師偏在指標による比較〕

第２期計画策定時：　令和５年

圏域	医師偏在指標	全国順位	区分
全国	255.6	―	
愛媛県	246.4	26/47	
松　山	292.0	44/330	**多数**
宇　摩	190.7	190/330	**中程度**
新居浜・西条	199.4	164/330	**中程度**
今　治	198.4	167/330	**中程度**
八幡浜・大洲	180.2	220/330	**中程度**
宇和島	187.9	197/330	**中程度**

第３期計画策定時：令和８年

医師偏在指標	全国順位	区分	（参考） 順位の変動
266.8	―		―
263.6	25/47		1
320.3	36/330	**多数**	8
211.5	169/330	**中程度**	21
210.1	171/330	**中程度**	▲7
211.7	168/330	**中程度**	▲1
183.4	244/330	**少数**	▲24
203.0	190/330	**中程度**	7

※全国の二次医療圏域数は 330 圏域であり、このうち医師偏在指標上、国が定める下位 33.3%に該当する圏域が「医師少数区域」となる。本県はすべての圏域において、第１期計画策定時及び第２期計画策定時とも「医師少数区域」には該当していなかったが、今回公表された令和８年指標において、八幡浜・大洲圏域が「医師少数区域」に該当することとなった。

◆評価

○愛媛県

・第２期計画策定時の医師数 3,693 人と比べ 69 人増加の 3,762 人となっており、目標医師数を達成している。

・医師偏在指標上は、「医師中程度都道府県」を維持、順位は 26 位から 25 位となっている。

○宇摩圏域

・第２期計画策定時の医師数 157 人と比べて、7 人増加の 164 人となっており、目標医師数を達成している。

・医師偏在指標上は、「医師中程度区域」を維持、順位は 190 位から 169 位となっている。

○新居浜・西条圏域

・第２期計画策定時の医師数 442 人と比べて、14 人増加の 456 人となっており、目標医師数を達成している。

・医師偏在指標上は、「医師中程度区域」を維持、順位は 164 位から 171 位となっている。

○今治圏域

・第２期計画策定時の医師数 335 人と比べて、３人増加の 338 人となっており、目標医師数を達成している。

・医師偏在指標上は、「医師中程度区域」を維持、順位は 167 位から 168 位となっている。

○松山圏域

・第２期計画策定時の医師数 2,240 人と比べて、59 人増加の 2,299 人となっており、目標医師数を達成している。

・医師偏在指標上は、「医師多数区域」を維持、順位は 44 位から 36 位となっている。

○八幡浜・大洲圏域

・第２期計画策定時の医師数 263 人と比べて、16 人減少の 247 人となっており、目標医師数の達成に至っていない。

・医師偏在指標上は、「医師少数区域」に新たに該当、順位は 220 位から 244 位となっている。

○宇和島圏域

・第２期計画策定時の医師数 256 人と比べて、２人増加の 258 人となっており、目標医師数を達成している。

・医師偏在指標上は、「医師中程度区域」を維持、順位は 197 位から 190 位となっている。

○松山圏域を除く二次医療圏全体

・第２期計画策定時の医師数 1,453 人と比べて、10 人増加の 1,463 人となっており、目標医師数を達成している。

- 県全体では医師が 69 人増加しているものの、圏域別では、「宇摩」、「新居浜・西条」、「今治」、「松山」及び「宇和島」の５圏域で増加した一方、「八幡浜・大洲」では減少しており、医師確保は着実に進んでいるものの、地域間偏在の是正には至っていない状況。
- 医師偏在指標上は、本県は「医師中程度都道府県」であり、「八幡浜・大洲」圏域が「医師少数区域」に該当するとともに、その他の圏域においても「医師少数区域」に近い圏域もあることから、医師確保及び偏在是正対策に継続して取り組む必要がある。

◆第２期計画に基づき実施した主な取組

【医師の養成とキャリア形成支援】

・愛媛県地域医療支援センターにおいて、地域枠の学生や地域枠医師に対し、面談等を通じて地域勤務への不安解消等に取り組むとともに、キャリア形成プログラム及びキャリア形成卒前支援プラン等に基づき、医師一人一人の将来に向けたキャリア形成について支援を行った。

・地域医療をテーマとした参加型の勉強会を開催したほか、地域医療の現場で活躍する医師による講演やワークショップを開催するなど、若手医師の地域医療に対する意識の醸成を図った。

・地域サテライトセンターが設置されている久万高原町等において、患者や住民、現場で働く医療従事者等との連携のもと、地域で求められる多様なニーズを学ぶための医学生を対象とした臨床実習を行った。

・臨床研修医の確保に向けて、臨床研修医の都道府県別上限を地域の実情に応じた適切な設定数とするよう、国に要請を行った。

・将来の本県の医療を支える専攻医の確保を図るため、専攻医の勤務環境改善やシーリングの見直しなど、専門医制度のさらなる改善について、国に対して要請を行った。

・医師数の将来推計等に基づき、大学医学部等の医育機関への地域枠や地元出身者枠の設定について、県内で安定的に医師を養成するため、大学医学部等の医育機関において必要な入学定員が確保できるよう、国に対して働きかけを行った。

【地域枠医師等による医師確保対策】

・地域枠医師等の奨学医師は、市町の要望、関係医療機関のニーズや医師本人の希望も踏まえながら、県内の医師が不足する地域の中核病院等に配置した。

・自治医科大学卒業医師は、市町等の要望や医師本人の希望も踏まえながら、県内のへき地医療機関等に配置した。

・医師が不足している地域における医師確保と、地域枠医師等のキャリア形成の両立を図るため、愛媛県キャリア形成プログラムに基づき、義務年限終了後も県内へ定着し活躍できるよう関係機関の協力のもと育成に取り組んだ。

・県立中央病院へ設置している「地域医療キャリア形成支援センター」において、義務年限終了後の自治医科大学卒業医師の県内定着の促進に取り組んだ。

・愛媛プラチナドクターバンク事業の実施により、県、県医師会、愛媛大学医学部が連携して、県内外の医療機関を退職する医師を主なターゲットとして医師不足地域等の医療機関とのマッチングを図った。

・県の寄附により愛媛大学に設置した「地域医療・総合診療学講座（令和７年度に「地域医療学講座」を再編)」において、地域枠学生をはじめとする医学部生を対象とした地域医療に係る講義・実習等を行い、総合的な診療能力を有する医師を育成した。

・救急医療等に係る医師を目指す若手医師等を対象にした医育機関が実施する研修等に対し経費を補助し、特に不足する救急医の確保に取り組んだ。

・愛媛県地域医療医師確保短期奨学金制度を拡充させ、「愛媛県地域医療医師確保期間選択制奨学金制度」とし、大学を問わず最大で６年間分の生活費を貸与することで、地域医療を担う若手医師の確保の強化に取り組んだ。

【県外からの医師確保】

・愛媛大学及び県内基幹型臨床研修病院との連携のもと、大都市圏で開催された「臨床研修病院合同説明会」に参加し、本県の臨床研修病院の魅力を積極的にPRしたほか、県外の医学生に対し、県と愛媛大学との共催により実施した「臨床研修病院説明会」や地域の医療機関が実施する「現場体験実習」への参加を促すなど、県外からの臨床研修医の確保に取り組んだ。

【県内への定着支援】

・愛媛県医師会との連携のもと、出産・育児及び再就職等に不安を抱える女性医師の復職等に関する相談窓口を設置・運営するとともに、キャリアアップ研修への参加支援などを行った。
・県医療勤務環境改善支援センターや愛媛労働局等関係機関と協力し、県内医療機関の医師の働き方改革に向けた支援を進めるなど、各種研修会の実施や個別の訪問支援等を行った。

【医師少数スポットに特化した対策】

・市町の要望、関係医療機関のニーズや医師本人の希望も踏まえ、自治医科大学卒業医師や地域枠医師を配置するとともに、キャリア形成支援センター所属医師による診療支援を行った。
・県の寄附により愛媛大学に設置した「地域医療・総合診療学講座」において、久万高原町立病院及び県立南宇和病院に設置した「地域サテライトセンター」を活動拠点とし、診療を通じた地域医療への支援や、学生への講義、実地研修等を行った。
・医師少数区域及び医師少数スポットに従事した医師を厚生労働大臣が認定する「医師少数区域経験認定医師制度」を広く周知し、認定を受ける医師の増加に取り組むとともに、医師少数スポットで勤務を継続するためのスキルアップ支援に取り組んだ。

【産科、小児科における医師確保対策】

・県の寄附により愛媛大学に設置した「小児・思春期療育学講座（令和７年度に「小児・周産期学講座」を再編)」において、小児・思春期療育提供システムの構築に向けた研究や、小児・思春期療育を担う人材育成などを行い、小児・思春期療育体制の維持・確保に取り組んだ。
・産科医療等に係る医師を目指す若手医師等を対象にした医育機関が実施する研修等に対し経費を補助し、特に不足する産科医の確保に取り組んだ。
・愛媛県地域医療医師確保短期奨学金制度における「特定診療科枠（産科医師確保特別奨学金)」の活用を通じて、特に不足する産科医の確保に努めた。

◆医師確保に関する今後の予定

地域の医療ニーズや課題を踏まえて地域医療構想等の地域の医療政策と整合を図りつつ医師確保対策を実施するとともに、今後、臨床研修を終える地域枠医師の増加に伴う医師配置等において、市町や医療関係団体、大学、関係する医療機関等と連携して地域に必要とされる医療を確実に提供できる体制の整備を進める。

なお、医師確保対策及び偏在の是正については、地方の努力だけでは限界があることから、国に対し、実効性のある対策の実現について引き続き要望していく。